

1、開催 日時 平成16年10月26日(火)午前11時

2、開催 場所 IBC放送会館 大会議室

3、委員の出席

委員数 14名

出席委員数 8名

出席委員の氏名

委員長 石川桂司

委員 熊谷 志衣子 小苅米葉子 小松 務

坂田 裕一 米谷 春夫 宮澤 徳雄

山崎 文子

欠席委員の氏名 阿部 价男 佐藤潤次郎 中原 志郎

藤原 正紀 矢佐 俊幸 吉沢 正則

会社側出席者

阿部 正樹 代表取締役専務

佐藤 敏行 常務取締役

川島 敬司 常務取締役編成局長

井上 隆志 取締役技術局長

村上 憲男 報道制作局長

事務局

金谷 保彦 番組審議会事務局長

小笠原 勉 番組審議会事務局次長

4、議 題 『思い出の歌謡曲』について

5、議事の概要

(1) 議題 『思い出の歌謡』

(2) <委員の主な発言>

- ・会場が興奮して立ち上がったのが一瞬画面に映った。あの盛り上がり方が凄いと思った。岩手には、演歌が好きな人がいっぱいいるのわかって安心した。大変楽しませて頂いた。
- ・歌を歌うことが、健康に繋がるんだと思うくらい歌手の皆さんが元気で、歌と健康のPRになったような気がする。客席で見ている方々の楽しそうな表情が印象的だったが、もっと引き出して会場との一体感を作れたら良かったのではないのでしょうか。
- ・司会者が、大きな台本を広げて読んでいたのが気になった。あれだけお客さまが楽しんでいるわけですから、声が出ない歌手もいたがそれもまた観客の思い出の中に生きることが大切なんだろうと思います。
- ・司会者が何であんなに硬いのか。もっと二人の良さが出ればよかった。会場の皆さんは高齢の方々に、すごく喜んでいるからやはり懐かしくて見るんだなというのは伝わってきたが、私は余り得手ではないので、う～んと思って見ました。
- ・私も歌が好きで、懐かしく聞かせてもらった。女性のお年を召した歌手のアップはいかがなものか。テレビですから表情も何も映る訳ですが、少々残酷ではないのでしょうか。曇りガラスから見えるような画面にすれば思い出が一層募るのではないのでしょうか。
- ・司会の二人が何であんなに硬いのか。いつもの軽快なしゃべりが全然出ていなくて。会場のお客さんも、雰囲気盛り上げるといって楽しいトークを期待していたと思います。歌手の人たちは姿勢がいいし、多少は衰えているのですが声も出るし、歌というものは健康に良いのだと私も思いました。会場がすごく楽しそうだったのがとても印象的で、歌手のアップよりも、会場のお客さんの表情をもっとたくさん映したほうが良かったのではないのでしょうか。
- ・会場に来られた方々が満席で、本当に楽しそうに見ている光景を見ると、やはりシルバー世代の方々にとっては良い番組だったと思います。老・青・壮のバランスをとった出演者にはなっているが、もう少し青と壮の知名度のある歌手が出れば良かったと思っています。二人の司会者は非常に人気者で、ラジオで聞いていると楽しくて素晴らしいアナウンサーだと常々思っていますが、この番組に関してはちょっと残念な気がしました。

- ・個人的には、「思い出の歌手」というタイトルの方が良かったと思いますが、懐かしく見ました。IBCニューサウンズの紹介がもう少しあっても良かった。
- ・こういう番組を作る時、ステージを盛り上げて、それをカメラで撮るというやり方と、テレビで放送するというのがメインにあって、公開録画的にコンサートをやっていく方法で、いろんな撮り方があると思います。現場の思いを聞かせて頂きたいと思います。
- ・災害の際にはテレビ、ラジオは速報性ということで、メディアの中で一番発揮するところです。新潟中越地震の報道では、各民放も特別番組をやったことは、大変結構な姿勢だったと思います。岩手県で同様の災害が起きた際には、ラジオの使命、役割が非常に大きくなってくると思います。
- ・被災地の、市役所や役場に「今の状況はどうか」と聞くのはいいんですが、「今、何を住民に呼びかけたいですか」という問いには違和感があるんです。聞くまでもないことで、むしろ放送局が「住民の皆さん、火はすぐ止めましょう」などと呼びかけるべきで、大混乱している所に聞くことではないんじゃないか。
- ・亡くなった小学生の同級生にインタビューしていましたが、いかにも涙を流させるのを誘導しているようでした。子供たちの心はかなり傷ついているのに、配慮が必要ではないのかと、見ていて腹立たしい思いでした。

<局側>

- ・テレビ中継用の公録と、有料でのステージを収録する場合で、かなり制約があってスタイルが異なります。例えば、観客とのやりとりについては、有料の場合はなるべく避けています。照明が点きっぱなしになってステージに集中できない。純粋に無料のテレビ用であれば、照明を点けて客席も撮り、カメラもステージに上げて歌手越しに客席を撮ったりもします。カメラを1台動かしていますが、低い位置で動かすようにする等、非常に気を遣った中継という形にしています。

司会が台本を広げているのは、結構古い人も多いし、名前などを間違わないためにあの形をとっています。ただ、持っていたものが反射したりしてまずかったかなと思っています。

司会がなぜ硬いのかというと、第1部が14,5分オーバー、第2部はインタビューが入ったので30分ほど編集しなければならない。歌が中心の歌謡ショーなので、肝心の大塚、水越アナの面白い部分が、全部落ちてしまいました。

- ・会場に見えた方々の平均年齢は平均70歳前後です。今年3回目ですが、1回目から会場でハンカチを出してみんな泣いているんです。来た方々が、

青春時代の思い出としてご覧になっていたと思います

これは事業のイベントであると同時に、営業の部分でも2回の放送に分けてセールスしている物件でもあり、これを条件に出演者との契約もしています。今、歌謡曲の番組が民放でもなくなってきて、NHKの歌謡コンサートはいつも視聴率でベスト5に入る番組です。今回の番組の視聴率は来週出ますが、去年の視聴率で見れば、やはり2桁になっています。4回目をやるかどうかについてはまだ決まっていますが、そのうちに結論を出さなければと思っています。

- ・ 日曜日にいろんなチャンネルを見ていたら、役場側の対応の遅さなどを誘導的に引き出そうとするなということを若干感じました。今回の様に、ライフラインが途切れているから、どうするのかという事を聞きたいのは解りますが、その辺は各局の判断だと思っています。
- ・ 1971年に全日空の大きな事故がありました。私はあの時、現場に行っていました。みんな「今のお気持ちは」と聞くわけです。映せば解るじゃないの、その為のテレビではないかと、それは実感しています。
- ・ 災害や事件の時に、マスコミが突っ込みすぎる事例がここ数十年ずっとあり、そういう声を受け入れながら、いろいろな規定を作ったり、研修をして出来るだけそういうことをなくしていこうという動きはしております。災害などの取材に関してのルール作りを常に意識してやっているという現状はあります。